

- 身近な益虫たち -

センチコガネ

初冬でも暖かい陽射しの日には、美しくきらきらと光る翅を持ったセンチコガネが地表近くを翔んでいるのを見ることがあります。彼らは動物の糞をエサとしていて、新しい糞があればどこからともなく飛んできて、糞を見つけるとその下や近くに穴を掘り、中に運び込んだ糞に卵を産みつけ、孵った幼虫はそれらの糞を食べて育ちます。

奈良公園には瑠璃色の美しいルリセンチコガネという種類があり、公園や近くの春日大社にたくさん生息している鹿

たちの糞を食べています。奈良公園付近の鹿の数は約 1200 頭、これだけの数の鹿が排出する糞の量は年間 200 トン以上になりますが、これらの糞をセンチコガネをはじめとしてダイコクコガネやエンマコガネ、マグソコガネなど、動物の糞を食べる昆虫(いわゆる糞虫)たちが摂食し、粉碎・分解してくれています。もし彼らがいないと、奈良公園の中は 1000 頭以上の鹿が排泄する糞で異様なにおいに包まれているかもしれません。しかし、最近では奈良公園



のセンチコガネなどの糞虫の数も環境条件の悪化のせいも減少してきて、公園内の芝生の上にはいつまでも鹿の糞が転がっており、観光客がゆっくり腰をおろせる芝生の面積も減少しているようです。海外では糞虫は家畜類の糞の処理などに利用されており、最近では日本でも有効利用に関する研究が進んでいるようです。

海外にはファーブル昆虫記に出てくるタマオシコガネのように糞を団子にして転がす種類がありますが、日本のセンチコガネたちは残念ながら糞を転がすことはできず、前足と頭で押したり、前足で引っ張ったりして運んでいきます。しかし時にはタマオシコガネのように逆立ちして後ろ足で運ぼうとする行動もみられます。あと、1000 年くらいしたら日本のセンチコガネも糞を転がすように進化しているかもしれませんが、それを見届けられる頃まで我々人類が生存しているのはちょっと難しいかもしれませんね。

(淡路農業技術センター農業部 二井清友)